

ロボット手術と共存可能な、次世代ウェアラブル照明

大腸癌の手術は近年、腹腔鏡下手術やロボット手術が非常に増えています。しかし、開腹手術を行う際はもちろん、腹腔鏡手術を行う際でも腹会陰式直腸切断術における会陰操作、ISRにおける肛

門括約筋の剥離、結腸肛門吻合など、直視下に手術を行い、かつ明かりが必要な場面は依然存在します(図1)。

そんな時に、OPELA IIIは、「移動可能でウェアラブルな無影灯」ということでしたので、自分の見たい角度で明るく照らせると考え、ロボット併用のISRで肛門操作(直視下)をする際に使用しました。OPELA IIIは、コンパクトな無影灯として、大腸・肛門外科領域のロボット手術と上手く共存できる照明だと感じました。



図1 | ISRにおけるロボット操作／直視下操作の様子

前壁に無理なく入る明かり

経肛門の処理で困るのは直腸前壁付近に明かりが入らないこと。一番見たいところなのに、従来の照明では照らしにくいという課題がありました。これまでは肛門操作の際には、無影灯を移動させて肛門にライトを当てていました。しかし天井吊りの無影灯ではどうしても角度に限界があり、照らせない領域もある。

後壁は明るくできても前壁を照らすのは非常に難しいんですね。前任地の静岡がんセンターでは移動可能な自立式無影灯を使用し

ていましたが、今の病院ではスペースの関係もあって、そういった照明の導入は現実的ではない。

また、移動可能でも自立している無影灯だと、どうしても上から下への光になってしまうので目線の先、水平方向やや上向きの場合などに光を当てるのは、やはり角度的に厳しい。それが、今回のOPELA IIIでは前壁の裏の、かなり深い所まで明るくできていたのでスムーズに手術ができました(図2)。

しばらくしてから無影灯を消し、OPELA IIIの光のみで手術しましたが、単体でも非常に明るく、全く問題なく前壁処理を行うことができました。サイズの手術室内も器械置場も逼迫しないので、肛門操作を伴う手術では積極的に使用していこうと思います。

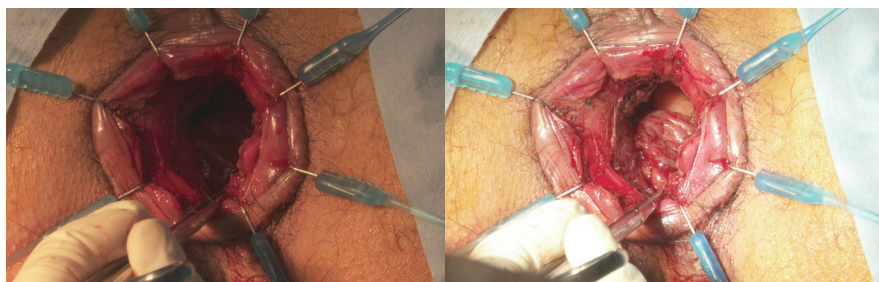


図2 | 経肛門操作でも明るい視野で手術できる

[製造販売元]

太陽商事株式会社

〒108-0014 東京都港区芝五丁目30番9号藤ビル
TEL 03(5440)6273 FAX 03(5440)2080

<https://www.opela3.com/>

ウェアラブル手術用照明

OPELA III™ Cx

無影灯の光をウェアラブルに
外科医の“Customer experience”から
OPELA III™は新しい形へ



製品サイト



OPELA III®は太陽商事株式会社の登録商標です。 OPELA III™は太陽商事株式会社の商標です。